

数 学 科 学 習 指 導 案

指導者 天野 秀樹

日 時 令和3年7月15日(木) 第3校時(10:45~11:35)

年 組 中学校第2学年2組 計39名

場 所 中学校第2学年2組

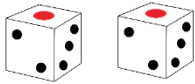
単 元 確率

本時の目標 場合の数をもとにして確率の問題を解決することができる。

教科等本来の魅力に迫るための手立て

1つ目は、2つの不思議なサイコロ問題を教材として取りあげ、導入時に「おやっ!」と驚く場面を設定することである。2つ目は、ふりかえり場面で問題づくりをさせ、場合の数をもとに問題解決する追体験から深い学びにつなげる機会を設けることである。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (◆評価)
1. 2つの不思議なサイコロ問題に取り組むことを知る。	・サイコロトークをして場の雰囲気のを和らげる。
問題 1, 2, 2, 3, 3, 3の目でどちらもできている2つのサイコロを同時にふるとき、和はいくつになることが最も多いか。 	
2. 予想する。 〔生徒の反応〕 ・6になる(多数) ・6にならない? ・5になる	・即考えたことを挙手させる。 ・2つのサイコロを実際に何度か生徒にふらせ、場合の数をいくつか確認する。
3. 自力解決する。 〔生徒の反応〕 ・6になる ・5になる	・ワークシートを配付する。 ・机間指導で場合の数の捉え方を把握する。 ・まわりの生徒どうして交流を促す。 ・3名の生徒にアイデアを板書させる。 ・3名の生徒に発表させる。
4. 和は5になることを全体で共有する。 〔発表する内容〕 ・樹形図を使う方法 ・表を使う方法	◆場合の数をもとに解決できているか。 ・ワークシートにアイデアを整理させる。
5. 【ふりかえり】 新たな問題を作る。 作った問題をグループで交流する。	・自由な発想で取り組ませる。 ・グループで優秀問題を選定させる。 ・選定した理由も考えさせる。
6. 作った問題を全体で共有する。	